

昭和学院の
英語夏期講習



グローバル社会で使える英語力をつける

同 校が英語教育でめざしているのは、大学進学に必要な英語力と、グローバル社会で使える英語力の獲得です。

まず、中1、中2では音読、きれいなアルファベットの筆記、ノート整理、辞書の使い方。中3、高1では辞書を使いこなす、系統的な英文法の理解、基本の重要構文暗記、表現力養成。高2、高3では論文やエッセイのパラグラフフリーディングや速読で英文の構成や意図の把握です。6年間を3段階に分けて英語力を積み上げていきます。

この日はイングリッシュルームで高2の夏期講習が行われていました。ヘッドセットを付けた生徒たちが単語や文を発すると、画面に自分の発音とネイティブ教員の発音がグラフ化されて出てきます。ネイティブ教員は生徒たちを巡回したり、教卓のパソコンから生徒個々のグラフを見たりして発音をチェック。生徒たちは自分のグラフの波形が正確になるまで何度も発音を繰り返します。「入門、基礎、応用、発展と、高2ま

でに大学進学の核となる英語力を鍛えていきます。中学の英語は週6時間。そのうち1時間ある英会話の授業はネイティブ教員と日本人教員によるチームティーチングです。シヨッピングや道を尋ねる場面を設定し、ゲームを取り入れるなど楽しめる工夫もしています。朝の自習時間では、ほぼ毎日小テストを行い、合格点に満たないと再試験、再々試験を行います。試験に合格した生徒に対して、課題を求められれば応えるなど、一人ひとりに合わせた指導をしています」(英語科主任/山崎直子先生)

また、eラーニング(※では、英検のための自主学習プログラムを導入。生徒全員が英検IDを持ち、家庭のパソコンでも自分のペースで学習しています。目標は中3までに英検3級以上全員合格です。

海外研修は高1の希望者を対象に3週間、カナダでホームステイと語学研修を実施しています。毎年多くの生徒が参加し、英語に対する高いモチベーションと国際感覚を身につけて帰国します。

イングリッシュルームでリスニングを強化



▲ネイティブ教員の発音に続いて、大きな声で単語を発音する生徒たち。自分の発音が波形となってビジュアル化され、楽しそうな授業風景です。

▲リスニングの学習に使われるイングリッシュルーム。大きな声で正確に発音した生徒に先生から「Good Job」の声がかかります。



▶ネイティブ教員が生徒の横に付いて、画面を見ながらアドバイス。同校には2名のネイティブ教員がいます。

▶リスニングでは映画のワンシーンを使った授業も展開。この日はオズの魔法使いの映像を使用。



▲高2の夏期講習では英語講座を実施。講座では大学受験に必要な英語力を鍛えます。

▲アトリウム、ロビー、廊下……と、さまざまなところに机と椅子が置かれ、生徒が質問しやすい環境を提供しています。

山崎先生の
こだわり指導



**わかるまで時間をかけて
きめ細かい指導を徹底**

6年後に難関大学に合格することを目標とし、英語を軸にした学力向上をめざしています。毎日の授業では、各教員が宿題ノートの点検や教材の工夫をしています。中学生で英語が嫌いになるのは、わからなくて点数がとれないから。授業で徹底させたいことを理解して合格するまで、時間をかけて教えます。

本校の特徴は面倒見が良いこと。中学でも関東大会出場は当たり前というほど部活動が盛んです。でも、成績が振るわないと部活出席停止にして放課後に個人指導をします。たとえば生徒の横に付いてその場で書いたものを直すなど、懇切でいい指導が大切なのです。